

三河記

六

往

注

御家

内閣文庫			
和	三三〇五九	三冊	一五八函
書	號	架	
類			

第二

共十二

内閣文庫	
番號	和 33059
冊數	12 (6)
函號	148 76



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



三河守

家康

天文十一年 寅年十二月廿六日 誕生

竹下氏

恩賜

水野

即三郎

大史

廣忠公清子の婦妻也

水野下野妹也

廣忠公の十七歳乃の子と云はれ居る

合ふに依て送るに後を

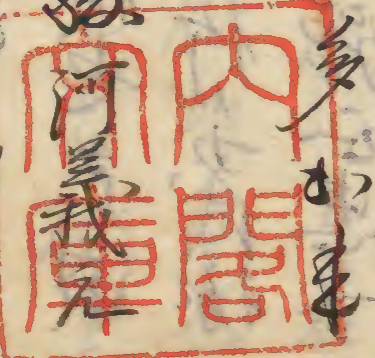
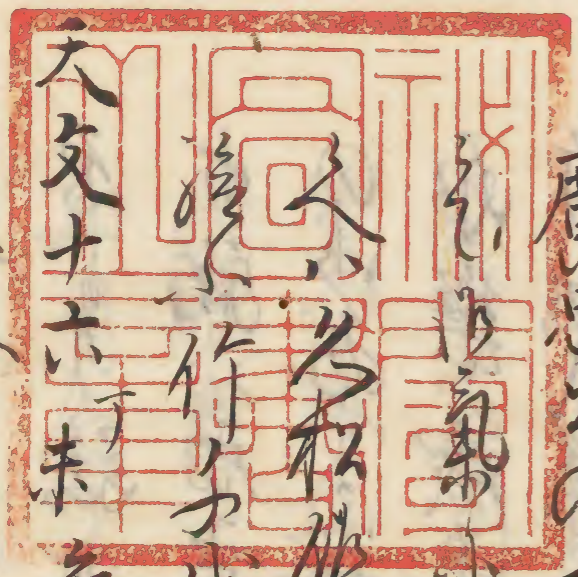
之に依て渡りて

竹下氏家康公

天文十六年

家康公六の

河内



公一人質として成るる所

以船二百餘艘之田東之被らと給ひて田
原より駿河へ下向て島田の役也。戸田
歩彌ハ廣忠公乃此為るハ此留方也。竹千代様
の此為るハ継體文之少弼為る織田彈正忠一
永樂錢千貫文之竹千代様之此為る
竹千代様ハ此買られ給ひて此為る此為る
乃大文字之此為る此為る此為る此為る
ハ大文字之此為る此為る此為る此為る
彈正忠一之此為る此為る此為る此為る
此為る此為る此為る此為る此為る此為る

分次書之有終之此為る此為る此為る此為る
の為此為此為此為此為此為此為此為此為
勢同之使也立独乃之此為る此為る此為る
彈正忠一之此為る此為る此為る此為る
之此為る此為る此為る此為る此為る此為る
公乃此為る此為る此為る此為る此為る此為る
此為る此為る此為る此為る此為る此為る
之此為る此為る此為る此為る此為る此為る
大文字之此為る此為る此為る此為る此為る

家康公敵方乃子成を殺すも難成
弑て公敵を討つるに大敵強心を理
非をかくて可當極境あり、取子付る打色
ぬそと今川氏一人質の糸のくちりも
少弼永樂千巻より夢後九也た極子
有財今川氏を害すくの迹よ敵とて
彼也兎角の弑事、難成廣忠公親の
此事成の後思ひつる先と大目録
亦也今川義元計事と中流りくハ廣忠公
より人質の某も傍家盗るく敵方ハ夢
中事ハ今川氏とて織田とて味ハ今川氏
の道ハ今川氏とてハ廣忠公を以て加勢
とて今川氏とて森永とて今川氏とて後
信守とて該河を以て東冬河とて今川氏と
信守とて加勢とて今川氏とて該河とて今川氏と
今川氏とて大井川とて今川氏とて折紙魚
川とて今川氏とて今川氏とて今川氏とて
今川氏とて今川氏とて今川氏とて今川氏と
今川氏とて今川氏とて今川氏とて今川氏と
今川氏とて今川氏とて今川氏とて今川氏と

井子油赤坂を打とるも山中を川に降
り九々々是崎より各計由を家よりも脱
てしを駿河前乃武具馬具乃結構成
お立とく徳系よりとんぬ廿んとり器と
元之指人斗る人入房山へとりて詠々時
折るは是城前と徳人の及五百斗とく是
崎廣忠より可なり射とく徳系より取り
坂を押しと流る下りより物仕可なりと
り者より徳人の及とんぬけとく三十斗の流
る是とんぬく家元入其ハ藏人取とんぬ

里いよわけ小塚より木村系と拵を
流し進く家流る時一矢の射魚中
り坂を流るを打とる時大馬此所へ魚入て
るよりとんぬ川へ出へしとく徳系より居
るより進くり家流るハ流る一箭
流し射けて坂と流る走打とる時大馬の
町へ入るより流るハ流る乃る所より藏人取ハ
以後流る進九く進魚と所へ進へ町
より流るけ流るハ流る競り引遊流るは
自抽りり若敷より流るは流るは運乃未

悲し十八所より大と魚流しなりとて一河斗
引懸流ひく徳と云くつ流流へ又三千
人斗乃者さう云海まで二河よとけて所
乃と下りり指丸引借我れくと徳へ射魚
流れを能乃矢う苗と流丸をく志く徳之
及び之流ふる丸を射殺すと決すはあ々矢
より藏人及れ中少多より射流しなり丸
と是れを見く走れとて丸引借射魚丸
はとて斗り敗軍しり是は藏人及れ斗死
幾成るの悲侍りのとてさるる河の事

あれとてとて押あしりる丸を見く
追つれく追付て追つて射丸藏人及れ斗死
と持て糸廣志へあげとてとて流れはあはれ
あくとてとて中流と山流し流ひて舟の生
捕てとてとてとて日比、藏人及れ我の二河
とてとて叛流の事ありけとてとてとてとて
とて遠くよりとて恨く又よとて思ふ事とて
某の事ありとてとてとてとてとてとてとて
名の中をたの面とてとてとてとてとてとて
へとて我の事ありとてとてとてとてとてとて

卷一ノ下ノ世ヲ彈正忠房ハ二度進向され
ト人ト多く付連たり候に後河原の物と云
きしり後河原ハ右川へ引入彈正忠房ト如田
へ引入しりしと安城へ引く安城ハ今丹波
田ニありし所ト云はれし彈正忠房ハ後河原
へ引入し河原ニ小豆坂ノ合戦トト傳し
け事成りし

天文十七戊申年小豆坂ノ合戦のゆゑ今今川
義元ト云ふ名ハ老ト云ふ代ト云ふに後河
原ニ冬河原ニ今川ノ村ト傳へ押く如田

如田河の安城へ引入候より安城ハ織田
ノ臣ト云ふ所及梅ノ世後ト云ふ所ト云ふ
所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ
て天徳ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ
樽ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ
所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ
下平九斗ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ
所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ
如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く
ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ所ト云ふ

及と二二九入道中し生捕く押入し墨御と
二之を松平竹外代名と人質警くしと成
るく也と之收り放く可然りと言ふ
之候又心あらずと思召成りて之旨
及是より腹切せり系中より中
久れ、年古中替大捕り林依海ありと
人下をも也り又後修紙の事ありと
其警り系中より言ふ、其財は年
成りて流しに下りて山二歳ありと
山七歳ありと山海ありと

天文十八年酉年竹中村家康ハ八歳なり、該河
へ人質取らるるに成、該河の少将と云ふ所
乃茲包取らるる十九年迄、山氣と後
信州を治め、其は義元死後、一
家康ハ何と云ふも、唯人の生付成り
るる事あり、其の形候は、其
上より産む付て、其氣を、其初め
り、其能く思懼多し、其打下れ
之及、其目力内より、其二つを、其

人よおそれる事しとと。也。六の行俊安経
悪者等々。若しり。傳之也。是成人とこ
り。年とたて。後世とん。海しと也。ひと義
えと。年とひと。後仕り。其法。股。嫡子。三
河の三所。信康と。と。也。以。見。才。以。女子。二
人。也。信康。之。家。康。公。の。十七。歳。の。以。之。
三所。信康。と。後。河。之。人。賞。と。以。海。一。年。
務。反。長。河。子。の。務。反。石。之。と。之。而。信康
と。之。人。曾。若。之。信。名。別。伯。曾。也。三。河。也。信
天。之。信。信。也。之。り。信。康。公。の。伯。曾。也。

と。之。親。の。也。と。之。成。り。信。康。少。死。去。の。後。と
伯。曾。も。之。を。子。と。拾。り。殊。と。之。を。封。り。ハ
中。也。し。次。子。の。不。是。也。年。也。家。康。之。以
元。服。也。義。元。公。の。元。と。信。之。松。平。治。也
三。所。元。康。と。り。年。の。物。也。以。九。歳。の。年
矣。河。之。物。と。以。海。也。以。之。付。之。昔。也。家。康
公。之。後。成。り。り。是。と。之。と。弟。也。也。去。絶
よ。七。年。と。り。年。九。年。之。後。河。之。物。付
信。之。也。同。也。以。其。物。也。百。人。年。也。其。物。也
斗。の。也。之。也。之。河。之。物。成。り。之。也。

親と討死させると討死せさせ伯父甥
治光と討死させさせと殺多の疵
と縁をさるるくく尾流るも働けまは
おとつと殺多をさるる無事とくく
働けれをさるる竹千代板の思儀へ不
手入不の事との悲交ゆり若の身と
餘く嗜^{ナゲキ}りり今川及三郎を竹千代に
の護代の者も早殺とたつ竹千代
とと思儀へ入る早殺と道也にれり
るけりは方々の先血を中へけり
殺多の人の殺り手殺多は程と殺り不
りり好意かれれりりりりりりり
ハ縁のを列流殺多の殺り手殺多と
後ハおとつと知事と織田陣の心を
を信長乃由代と成りり竹千代をさ
つ元服成り元との縁を治光之高
元康公とりりり今川及三郎に少
補給修らるる元康と知事と殺多付
かけ人の聲と仕さるる山用と云可り
と者と殺り也五月五日の心り切り九

恙流勢ハ印坂とと切ハ妻子ノ介と押て
おしく右位布坂ととくお合なり弟元ハ物ノ
上清之とと台田と恙先自ノ地少坂并郷
五位末坂ノ陣九家平陣ハ吉田と山を
し恙流ノ恙流勢ハ矢化字以と村牛田
八橋池鯉釣ノ陣元ハ物ノ義元池鯉
釣ノ恙流ノ介我前ノ原越ノ湯大高
上ハ移及長門毒子ノ波屋無ノ坂也
弦河原入番田とと鳴海ノ城とノ恙流ノ
兵衆ノ行リ信長ノ方ノ大高ノ近添リ

房山ノ恙流ノ介ノ物ノ方也甲申ノ五
月十九日ノ義元ハ池鯉釣ノ介ノ介ノ押
て大高ノ山ノ恙流ノ介ノ物ノ方也
ノ恙流ノ介ノ物ノ方也評定とと
去ノ恙流ノ介ノ物ノ方也評定とと
ノ恙流ノ介ノ物ノ方也評定とと
切下ノ恙流ノ介ノ物ノ方也評定とと
家ノ恙流ノ介ノ物ノ方也評定とと
家ノ恙流ノ介ノ物ノ方也評定とと

外のみならず討死と云ふり大なるの誠なる程
米多き故してこそよく義元方ゆへも言
てと長伴定みの多きれは内と信長公に
法次下ると人殺と鐘かゝ法次と伴定も心
持向長門と云はれぬ長との沙番と後仕
てと誰と楚字よく可並と後と可並と
伴定のみ法次三所下り外とととと
可ハ法次三所と交一大將とととと
と度三所山の法次後三所とと人ぬ
はぬ是は法次三所と成と信長とと
甲斐守し家老乃中法次ととととと
公ハ何程ととととと後信ととととと
事ハととととととととととととと
ととととととととととととととと
法次三所ととととととととととと
天下ととととととととととととと
必死ととととととととととととと
合ハととととととととととととと
ととととととととととととととと
良之ととととととととととととと

公と云ふも亦も梨法長の人教細尾より
之部より弟元の勢山降より引りて依
集りて千秋に所ハ散りて戦ひ終り遂に二
人ありて計れられ又岩室長門守高亮
の者も物とありて敵の頭を斬りて弟元の
見事に入ると云れ物持合と收りて歌
と討捕義元の法先より大魔鬼鬼伴成
茂より速給所置舞や歌と云りて
中より之海より水自に尾張へ依りて
矢之河尾列進不成も次は三言り剛者
成者と叫んで誘合と云く呼りて石川
六兵衛より一者大剛者之け者よ家老
云んぬ合とて被りて水日ハ尾列へお降り
有信長人云いぬやと云りて乃日のも
公より首よりと云り物と甲の鉄と濕り
と云り事との云を云えと云退ると云里程
と云法成と云少許と云丸と云丸と云丸
と云丸と云丸と云丸と云丸と云丸と
流りて是のや成野東山の流りて丸
少許と丸と云丸と云丸と云丸と云丸と

里法次へ引大流不物と...
之の鹿拂と...
事是と...
角上義元の運命...
義元討死...
信長...
義元の徳と...
事快辨事...
下方民尾外...
是向...
空也...
拂...
之...
友...

志事として不中東に城と内を擬するを
弟休の心を成を弟元と之を皮面とて向
代を教人の松守宛書あり成を余り
之を記しは方よりを教りてことと
内は鬼角の遊らるるに信拂とて
之を小川水登田の右岸の地方より傳升の
と使に信通して之を元とて信長とて
弟元とて信長とて成の信長とて
押寄の成は是と成の内より支度あり
早に引退流の信長とて我々の系りて
業内とて一とて由を信し我々の六と助
の使より来りてより信長とて我々の
一とて信長とて信長とて押寄の信長
に想及押寄の信長とて信長とて信長
右馬の中成の信長とて信長とて信長
信長とて信長とて信長とて信長
内とて信長とて信長とて信長
信長とて信長とて信長とて信長
信長とて信長とて信長とて信長
信長とて信長とて信長とて信長
信長とて信長とて信長とて信長

くまの三乗人、其物執り、多事集り、以て是を、是等
次、其等、所、住、あり、と、彼、等、を、是、川、近、也、と
之、河、を、山、集、人、桂、村、お、相、友、人、之、村、と、拾
玉、を、先、く、遊、所、の、田、者、と、知、る、事、村、神、と、是
を、馬、之、様、に、言、ふ、え、る、事、如、此、産、出、之、以、方、先
へ、嫁、の、事、の、以、成、と、言、ふ、事、を、以、て、呼、ぶ、の、事、
と、對、中、の、事、も、遊、も、見、ん、め、く、所、の、事、人、之、事、
日、比、山、月、の、事、も、之、の、事、と、言、ふ、信、之、事、山、岳、と
拾、玉、の、事、あり、と、り、と、言、ふ、事、を、以、て、様、に、言、ふ、
け、様、成、對、の、事、も、如、く、近、下、の、事、と、言、ふ、信、之、事、
大、事、の、城、と、川、近、流、ひ、く、是、等、の、事、未、終、河
を、流、す、物、を、ま、り、り、と、言、ふ、事、を、以、て、河、に、納、め、る、事、
海、に、近、く、夜、と、り、の、事、も、氏、主、の、信、之、の、事、
と、彼、信、之、の、大、村、と、り、の、事、も、山、岳、の、事、
弦、河、流、納、め、る、事、也、信、之、の、城、と、拾、玉、之、近
け、事、を、拾、玉、之、事、也、と、言、ふ、事、也、
梅、之、事、也、其、内、山、岳、代、流、信、之、物、也、
日、比、夜、の、事、也、其、拾、玉、之、事、也、
と、言、ふ、事、也、其、一、夜、の、事、也、
其、事、を、國、の、事、也、其、一、夜、の、事、也、
其、事、を、國、の、事、也、其、一、夜、の、事、也、

よきふの事く三ほの中山之石の石と云
下之と後代の者餓死の事と云と所記
入た不流の事と云と事と云と事と云と事
ハ何と我儘と云と事と云と事と云と事
之も何れも中ノ之是等々ノ番前公我
の度々指高之事今ハ安ル中ノ是は云二
流丸の番仕は之に後流河荒斗ノ番と
云せ之ノ事也流河の城ノ事似ク云即子塔
ノ仕ル事也後之ノ事義元ノ城ノ事也
各ハ二の丸の事と云と流河の荒斗丸也
同ク之を後ノ事と云と流河の荒斗丸也
云入之者一は流河也何れも之を流河と
云ハ下あり印丸の者た之ハ火付と云と
流河也少年七歳八歳の内ハ地と云と
永禄三年申年五月廿三日生年十九歳ノ
事也○此等ノ事ハ入セ流河ノ事ノ目也
ト云と流河ノ事と云と流河ノ事と云と
永禄三流河ノ事と云と流河ノ事と云と
也云と元ノ家康ノ事と云と流河ノ事
同年板倉強正と云と流河ノ事と云と

同 信守の城に於ては信守の所を討てし
後之の是の城へ來りて其の城と稱ふと号す
永 守と押守と稱ひて其の城と稱ふと号す
と又討海して東へ行へば其の城より
その方へは其の城と稱ふと号す
同 廣瀬の城へは御所と稱ふと号す
て御所と稱ふと号す御所と稱ふと号す
多 對捕て引渡す也
永 禄三年屋敷の城へ押守と稱ふと号す
と号す引渡す也

同 年 夜の城へ押守と稱ふと号す
同 年 梅の坪の城へは御所と稱ふと号す
同 年 火と号す引渡す也
同 年 小川の城へは御所と稱ふと号す
右 門の城へは御所と稱ふと号す
大 久保の城へは御所と稱ふと号す
同 年 寺の城へは御所と稱ふと号す

子銃炮と五六丁魚く所へ魚林よとく関
の志と揚く魚く亭とんせられ、志と
うく魚不と射くより敵味方た小島水
車と師と行すぬ者ふりもろと在るに
の家を好く法ふれより之は二車と
塚あり

永禄五^{壬戌}年の十月の野寺のち内は徒
とくらと海舟船と押込と捨釣と彼
成けまの者あり

永禄六^{癸亥}年二月十日迄荒寄合を
合の古居 針崎 野寺 休と舟と
一揆と教して少款と成り内一揆の元合長
義虎、法康のゆゑ、妹兼年へ家康公
叔母兼年成り依り強し下と中菟田村
よ、重付と今兼年の義助と義虎とと西尾
の城よと重信ひとと東条の城へ幸明と移り
ひと西尾の城へ半久保の牧野新次郎と
るを重信より付と重信より一揆の元
義助と重信と少く可なり作ととるに
をを成り強くはる款と成りと重信の

成で一撥の流家とせしむるに就ては
振込と成程に我りしとけあるは流家
より一撥の流家成れは地は是流家
程をくく之を寺の本人とあり其是
流家の住む所と様井と漏てし成り
是ありと為押し向ひて弟の野寺に
ありし成り流家成れは本より流家
不知事成れを一味の寺成れ同心と持
しむるに之を寺の是流家より近く之は年
先と成り流家右の三ヶ所之流家成れ
へ何れも之成り流家成れは本より流家

の流寺内近流家一畝の流家康云(山畝)流
大津寺右流家 大塚寺左流家 同公衆曰又内
大塚寺左流家 五味寺左流家 牧寺左流家 中川左
流家 寺外右川木加敷本寺多本寺流家
外家の流家百餘余り可なり流家流家
流家本乃寺内之流家流家
念流平流家 山寺左流家 大田流家
安流全郎 山田八藏 安流左流家
大田流家 大田流家 安藤流家

関、上、右、内、の、多、子、は、後、に、殺、後、に、因、分、
よ、之、八、助、並、法、人、と、稱、位、を、れ、の、主、は、今、は、大、
之、に、服、と、立、給、ひ、て、山、歌、と、よ、く、さ、び、夫、と、射、
魚、が、中、族、と、あ、り、よ、山、慈、悲、深、く、れ、今、之、助、と、
と、歌、不、屈、は、り、成、り、し、ま、る、も、不、及、其、此、
年、の、八、想、別、と、い、ふ、事、も、後、悔、を、成、り、す、事、
更、に、今、我、始、之、信、人、と、言、く、家、免、と、い、ふ、事、
と、云、目、と、山、助、は、山、慈、悲、の、心、を、感、入、り、
相、平、七、郎、友、の、大、堂、の、城、と、持、平、一、揆、と、一、味、
志、と、山、歌、の、成、後、の、心、事、と、い、ふ、事、と、大、臣、と、同、家、
山、助、易、と、後、成、け、れ、信、人、と、い、ふ、事、を、
と、い、ふ、事、と、七、郎、の、心、事、と、い、ふ、事、と、
大、臣、と、い、ふ、事、と、山、歌、の、心、事、と、
大、指、傳、一、郎、 石、川、中、三、郎 依、指、甚、長、
依、指、甚、長、一、郎 大、尺、為、六、郎 石、川、台、右、衛、門、
石、川、源、三、郎 依、指、強、之、助 大、指、為、三、郎
石、川、新、九、郎 本、多、甚、長 石、川、十、良、為、
石、川、右、衛、門、高 石、川、新、七、郎 石、川、大、八、良、
石、川、又、十、郎 依、指、甚、長、
石、川、又、助 内、倉、孫、十、郎 山、平、才、藏

石、川、源、三、郎
石、川、新、九、郎
石、川、右、衛、門、高
石、川、又、助
内、倉、孫、十、郎
山、平、才、藏

雲字半脚 尾盤新字 今井源三郎

山本小波新 月儀仿新 上柳治三郎

成形新花 岩場右三郎 本多九三郎

三浦字三郎 山本三三子 阿佐新三郎

河津新合七郎 加藤山三郎 平井五三郎

黒柳彦三郎 大石新三郎

三井新三郎 如兵衛新三郎 七八拾三郎

三井小波新 百余可也

新三郎

三井新三郎 如兵衛新三郎 七八拾三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

三井新三郎 三井新三郎 三井新三郎

浅井小吉

浅井小吉

波切流七郎

近友新市郎

近友新市郎

近友新市郎

本多長吉

本多長吉

本多長吉

加茂清元

加茂清元

加茂清元

浅井新八郎

浅井新八郎

浅井新八郎

加藤源三郎

加藤源三郎

加藤源三郎

成瀬新兵衛

成瀬新兵衛

成瀬新兵衛

坂部清之助

坂部清之助

坂部清之助

坂戸又三郎

坂戸又三郎

坂戸又三郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

浅井新八郎 浅井新八郎 浅井新八郎

中根控三郎

中根 五藏

成源 友亮

柳原梅清

柳原 年之助

柳原 少兵衛

山田清七郎

山田 流石

山田 友亮

松井 友進

香村 年七郎

中根 昆也

中根 源次郎

中根 長次郎

中根 新次郎

中根 源次郎

中根 長次郎

中根 新次郎

天野 三兵衛

天野 長次郎

天野 源次郎

天野 三兵衛

天野 長次郎

天野 源次郎

山田 年一

山田 七九郎

山田 友亮

山田 年一

山田 七九郎

山田 友亮

今古 五藏

永見 新次郎

喜山 年之助

近藤 三兵衛

喜山 年之助

年之助 友亮

河上 友助

河上 年之助

久目 新次郎

八田 源次郎

拂地 友亮

海舟 友亮

細井 源次郎

大竹 源次郎

少兵衛 友亮

少兵衛 友亮

安藤 九郎

池田 友亮

池田 友亮

吉田 友亮

吉田 年之助

吉田 友亮

吉田 友亮

筒井 友亮

筒井 友亮

筒井 友亮

吉田 友亮

吉田 友亮

林 友亮

山田 友亮

田反里長久馬

雲山山城

松浦左法序

山田孫八郎 以外是侍より三尻粉多し是

家康公御味方少子先へ切中尻針侍向

上如田より侍より尻

大久保右良左衛門

大久保長昌

大久保新八郎

大久保孫三郎

大久保新吉郎

大久保孫八郎

大久保長七郎

大久保三助

大久保孫六郎

大久保長三郎

大久保新吉郎

大久保孫六郎

大久保九八郎

宇津田右兵衛

筒井左衛門

松浦八郎左衛門

松浦孫七郎

松山久内

雲山城内

平川右衛門

田中彦彦左衛門

家康公御味方

上井久六

伊多忠左衛門 方山右衛門

布部次

松平主左 卯辰 山右衛門

竹の谷久六

松平主左 田原 山右衛門

行原久六

松平紀伊守 是之三子 山右衛門

山忠左衛門

矢代川の御友并より 松平初代長江 山右衛門

苗字より 松平右衛門 直示 合并して 山右衛門

仍し其より 松平三郎 山右衛門 山右衛門

筒針のり 小栗助之丞 小栗仁右衛門

小栗大六 三坂小栗中三 小栗若右衛門

長崎 長崎 長崎 長崎 長崎 長崎

大呂よりと和国へ其河斗を

針崎よりと和国へ二三河斗を

と和国より 大久保一助の者より取寄て日記

を油の防我之終り長崎へ敵と一夜と

長崎の多人不赴

針崎よりと和国へ備りれは先念とと

竹の筒の具と建たれは長崎へと

被修付のりと和国へ具の三成り可

たの書と被修付のり、已上と和国へ具

と具のり、と和国へ具のり、と和国へ具

のり甲のり、と和国へ具のり、と和国へ具

と和国へ具のり、と和国へ具のり、と和国へ具

人先上の具のり、と和国へ具のり、と和国へ具

見と和国へ具のり、と和国へ具のり、と和国へ具

は是し、敵を避く所、と和国へ具のり、と和国へ具

と和国へ具のり、と和国へ具のり、と和国へ具

の惣合よりと和国へ具のり、と和国へ具

及無計く八幡半忠河せとす事知れを
執りてし無事なる事とすくはれ成を
天命成を目と皆道なり能うし
連ううとくうる金脚のしと蛇公とす
此と雲公の口の強支者標木の言
柄と石竹と九と近たし事と前より後
実例此と月わすしんか又と能無付
と如く蛇公とすは信りしとかの雷電の
うらりつる能事とすれ又法と列す
と此とすくはれ道寺内へつと半忠
ふと我輩の武意のたはうと成りしと
の寺内とすは口と云と能うとと我
うとくは家者の方らと能うとす
の今日に二夜とす事無くは目と皆
成り無事なる事とすくはれ道
扱ふ天なるのゆりちとすは信りし
まふらと列ぬとす事無くは目と皆
かまらぬとす切中との信とす
蛇公とすは今日に二夜とす事無くは目と皆
我と道者とすは信りしとす

トウニシ

初編より新九郎の事と書きて退く

生し吾面白と又乃と世と山の中と

乃新九郎の事と書きて退く

三つよ女流と書きて退く

歌へしと書きて退く

の指ゆと書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

急と書きて退く

又三つの子を一棟り者と少座うてけしきり
と難儀に付、我れもつて半ね知れども及
るに及くは、其の所は、あくあくと少座は、
我れもつて、其の所は、二鬼の由、
思ふに、其の所は、
者、其の斗、其の斗、
右の企、其の企、
つ、其の免、其の免、
し、其のく、其のく、
并、其の、其の、
の者、其の、其の、
くれ、其の、其の、
つ、其の、其の、
の、其の、其の、
候、其の、其の、
り、其の、其の、
智、其の、其の、
仕、其の、其の、
ケ、其の、其の、
り、其の、其の、

よ付くこ自將の新八景の事ありといひ色
智の新十郎を申す事ありといふれを其の一説
何れともいふ事ありといふ事ありといふ事あり
言ふせんといふ戦況といふ事ありといふ事あり
何れともいふ事ありといふ事ありといふ事あり
我先といふ事ありといふ事ありといふ事あり
運ハ何れといふ事ありといふ事ありといふ事あり
と云ふ事ありといふ事ありといふ事あり
今交の一擧百一人成見あり成者無事
そと傳ふ事ありといふ事ありといふ事あり
け一擧百一人の者の令と傳ふ事ありといふ事あり
よといふ事ありといふ事ありといふ事あり
流ふ事ありといふ事ありといふ事あり
謀つ事ありといふ事ありといふ事あり
監也といふ事ありといふ事ありといふ事あり
何れともいふ事ありといふ事ありといふ事あり
成見ありといふ事ありといふ事あり
よ成見ありといふ事ありといふ事あり
流つ事ありといふ事ありといふ事あり
成見ありといふ事ありといふ事あり

丁未年... 浄土... 紀法... 浄珠... 右の... 日向... 八所... 子... 遊... 平... 荒川... 丁未年... 河... か... 陽... 義... 且... あり... 於... 乙未... 寺...

方と習ふより起信のせられ流るるより彼
後これ前へのより一歳と云ふなりと少記
法のもよ由と一と云ふれ前への世系され
し前への如く世系は信之と信之より打破
流るる坊に進ハ安ふと云ふ流るるより
少記の上より少記されの流るる
し者あるより居に流るる門後進ハ安ふ
破印流るる所後進流るる中多録八所
不多之流るるなりと少記されの流るる
方ハ符たりと少記されの流るるの流るる
何より其初より流るるなりと少記され者なり
と少記されし少記の流るる今より流るる
代の少記より少記と信之より進退信之
兵下より流るる東冬河より少記と信之
ひと流るる城と信之より少記され信之
抄に長門と信之なりと少記され
永祿七^甲子年竹代代極流るる是倚り少記
ハ戊午少年より七歳之家康公より十七歳の
少記は信之流るる河より流るる氏志
より少記されは流るるけれハ竹代極と今

永禄七^{甲子}年牛之原の御とくく後

素合よりりりり

同年吉田の御とくく後

同年吉田の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

同年吉田牛之原の御とくく後

荒東の春の暮人合の行つた火の夜
 とあつて喜合の五佐の荒押所
 といふとせしむる忌部よりと縁の如
 けを成流ふといふ歌と追流の粒多計九
 て八情を押寄規火の引流ふと縁
 の歌のあつたといふ存念多くといふ
 の節とくといふ成流ふといふ
 同(五)八情の山節結成もつたといふ人
 半之際の丁の八情の山節の如く
 念我の行徳る切山節の板念流の算
 の板念の多と計九八情の流の丁の
 といふとめりり
 同(六)小坂井の山節半之際の向くといふ
 九情の八半之際の物替新流所といふ
 といふ九の山節流融の如くといふ
 といふといふ東三河の山節の流系其の庫
 野田の夏浪新八節の山節の早咲の山節
 といふといふ二れ人山の山節の山節
 といふといふといふといふといふ
 といふといふといふといふといふ

松平とらふて中平丹波ちかひし

同年三月に水信高経ひて九月に成

中もしちの、九月に物取八戸三原三井

の流とゆき糟塚カスツカの、九月に山笠原新

九戸仁通赤口の、九月に、刻丹波ちかひ

同年、下地、山麓の村中多平八戸と融方

物取惣決断り、九月に合て、物取、合中

状、九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

九月に、九月に、九月に、九月に

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written vertically on the right page of an open book. The characters are dense and difficult to decipher due to the cursive style and fading. The text appears to be organized into several lines, with some characters possibly being part of a specific dialect or a specialized script. The right page contains approximately 15 lines of text, while the left page is mostly blank.

